



農林水産物等輸出促進メールマガジン

18 · 4 · 4 第8号



目 次

1. 平成17年の輸出実績（詳細）
2. 1月の輸出実績
3. 新着情報
 - （1）農林水産物等輸出促進全国協議会第4回幹事会を開催しました。
 - （2）「VJC魅力ある日本のおみやげコンテスト2006」が開催されました
 - （3）「農林水産物等輸出促進セミナー」の開催概要をホームページに掲載しました
 - （4）農林水産物等貿易円滑化活動検討委員会の開催概要をホームページに掲載しました
4. 韓国・ソウル日本食事情視察報告～和泉 輸出促進室長～
5. 3月の輸出関連記事

1. 平成17年の輸出実績（詳細）

(注：文中の増減比較は対16年)

平成17年の農林水産物（アルコール、たばこ、真珠を除く）等輸出額は前年同月比＋12.1％増の3,310億円となりました。農産物が＋6.8％増、林産物が＋3.7％増、水産物が＋19.8％増とそれぞれ増加しました。

(1) 晶目別内訳

① 農産物

農産物の品目別の内訳を見ると、生鮮農産品では、米〈援助米除く〉（＋３７．２％）、果物類でりんご（＋８２．４％）、なし（＋１６．９％）、桃（＋８５．３％）、ぶどう（＋５９．１％）、かき（＋１１５．０％）、いちご（＋２０５．３％）、野菜類でキャベツ（＋５７３．３％）、緑茶（＋２５．０％）等が大幅に増加しました。

これらの増加要因は、米や果実類は産地の取組の結果、また、キャベツは台湾の不作と日本の豊作の結果、緑茶は欧米を中心とした健康志向の高まりなどが考えられます。また、ながいもは豊作により輸出数量は増加した一方で単価が下落し輸出額が減少しました。

加工食品では、米菓（＋１０．９％）、ビスケット（＋５．８％）、キャンディー類（＋１４．７％）、醤油（＋７．５％）、味噌（＋６．５％）、うどん・そば・そうめん（＋２．７％）、即席麺（＋１２．９％）などが堅調に推移しました。菓子類については、菓子業界団体が米国、台湾等海外で日本菓子展示会を開催し、日本菓子の品質

が高い評価を受け、関心が高くなってきていることが要因と考えられます。醤油や味噌などは日本食ブームの拡大により、うどん・そば・そうめんや即席麺は米国での需要が堅調だったことによると考えられます。

② 林産物

林産物では丸太（＋１５４．４％）が大幅に増加しました。これは、主に宮崎、鹿児島両県から中国向けを中心に輸出案件が続いたことによるものです。

③ 水産物

水産物の内訳を見ると、かつお（＋５６４．３％）、さけ（＋６４．１％）、ホタテ（＋７５．１％）、貝柱調製品（＋７９．０％）、干しアワビ（＋１６．８％）、なお、すけとうだら（▲２０．４％）は減少しました。

これらの増減要因として、かつおは豊漁により缶詰原料用としてタイ向け輸出が伸びたこと、さけは中国国内需要と、中国で加工され輸出される先のヨーロッパ諸国で健康志向の高まりから魚食需要が拡大していることが考えられます。ホタテは世界的に不漁のため、米国が日本からの買い付けを増やしたことによります。

貝柱調整品や干しアワビにつきましては、香港での外食向けの業務用需要が好調だったことが要因と考えられます。すけとうだらの減少は、前年の16年がロシアの不漁のため日本から中国への輸出が急増したことの反動によるものです。

これを踏まえ、品目別構成割合を見ると、水産物の構成割合が伸びた一方、残りの加工食品等の構成割合は減少しました。なお、米や果実類、野菜類は構成割合は小さいながらもそれぞれの品目の高い伸びを受けて構成割合もわずかながら伸びました。

（２） 国・地域別内訳

輸出先国・地域別では、米国が最大の輸出先で、以下香港、中国の順位は変わらないものの、17年は好調に推移した台湾が韓国を抜いて４番手となりました。以下それぞれの国・地域向けの輸出動向を輸出額順に見てみます。

- ① 米国向けは、農産物、林産物、水産物とも増加しており、中でも水産物の伸びが大きくなりました。これは、前述のように、ホタテについて、米国が不漁で日本からの買い付けを増やしたことによると考えられます。なお、米国は他にも緑茶、醤油、味噌、米菓、ビスケット、即席麺等多くの品目で最大の輸出先となっています。
- ② 香港向けは、林産物が減少しましたが、農産物、水産物は伸びており、特に17年は水産物が大幅に増加しました。これは、前述のように干しアワビ、貝柱調製品などについて外食産業向け等業務用需要が拡大したことによると考えられます。香港は干しアワビの他にもいちご、キャンディー類、貝柱調製品等の品目で最大の輸出先となっています。
- ③ 中国向けでは、農産物が減少しましたが、林産物、水産物は伸びています。特に林産物では最大の輸出先となっています。また、水産物では、前述のようにさけ・ますの伸びが大きく、これは、中国国内需要の拡大に加えて、中国で加工して再輸出されるヨーロッパ諸国において健康ブームで魚食需要が伸びていることによるものと考えられます。
- ④ 台湾向けは、農産物、林産物、水産物それぞれ伸びており、中でも農産物が大きく伸びています。これは国内の各産地の取組が相次いだことによるものと考えられます。農産物の中では米やり

んごなどの果実類が大幅に増加しました。台湾はこれら品目に加え、なしやながいも、チョコレート菓子などの最大の輸出先となっています。

- ⑤ 韓国向けは、農産物が増加した一方で、林産物、水産物は減少しました。水産物の減少はチゲ鍋用として需要が伸びているすけとうだらについて減少となったことが影響しているものと考えられます。この減少は、前述のように前年の急増の反動によるものです。
- ⑥ タイ向けは、農産物、林産物、水産物とも増加しましたが、特に全体の約7割を占める水産物が好調に推移しました。その要因は前述のように缶詰原料用のかつお輸出が好調だったことによります。タイはかつおの他、柿などの最大の輸出先となっています。

タイ以下は、シンガポール、オーストラリア等と続き、東アジア※1諸国向け輸出額が全体の輸出額に占める割合は65.7%となっています。なお、EU※2向け輸出額は約160億円となり、輸出額順ではタイの次に位置します。EU域内で最も輸出額が大きいのはオランダで、以下イギリス、ドイツ、フランスなどがこれに続いています。

※1 東アジア諸国は韓国、北朝鮮、中国、香港、マカオ、台湾、フィリピン、ベトナム、ラオス、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ブルネイ、ミャンマーの15カ国の計。

※2 EUは加盟25カ国の計。

注1) 文章中、「大幅」は±16%台以上、「かなり」は±6～15%台以内、「やや」は±3～5%台以内、「わずか」は±2%台以内の変動を表しています。

注2) 文章に対応する図表はこちらに掲載予定です。

http://www.maff.go.jp/sogo_shokuryo/yusyutu/data.htm

(更新が遅れる場合がありますのでご注意ください。)

2. 1月の輸出実績

本年1月の農林水産物（アルコール、たばこ、真珠を除く）等輸出額は前年同月比▲0.6%減の239億円となりました。

http://www.maff.go.jp/sogo_shokuryo/yusyutu/yusyutu_info/tsukibetsu.pdf

1月は、農産物がわずかな減少、林産物及び水産物はわずかな増加となりました。農産物は昨年5月以来8ヶ月ぶりの減少、また、水産物は6ヶ月連続で二桁の伸び率で推移する等好調に推移してきましたが、1月は前年並となりました。

これは、菓子や貝柱等について、旧正月が早まったこと（昨年は2月9日、今年は1月29日）により、旧正月需要を当て込んだ出荷が12月に前倒しされたことによる反動等によるものです。

主な品目別には、温州みかん（+148.3%）、いちご（+159.1%）、かき（+399.9%）、播種用の種、果実及び孢子（+35.1%）、丸太（+2,755.7%）、まぐろ（+40.0%）、さけ・ます（+40.4%）等が大幅に増加する一方、菓子（▲12.0%）、貝柱（▲83.9%）等はかなり減少しています。

http://www.maff.go.jp/sogo_shokuryo/yusyutu/yusyutu_info/hinmoku.pdf

増加については、みかん、いちご、かきは香港、台湾向けが大幅に

伸びており、これは産地の販売促進活動の成果と考えられます。また、豚の皮については、品質が良好で規格も均一であることが諸外国で評価されていること、播種用の種、果実及び胞子は特に米国向けの園芸用草花の種子が増加していることによると考えられます。さらに丸太については中国向けにトマトの輸出案件があったこと、まぐろについては缶詰需要としてのタイ向け、刺身需要としての韓国向けが増加していること、さけ、ますについては中国からの引き合いが多く、現地での需要が好調であることによると考えられます。

一方、減少については、菓子、貝柱とも旧正月が昨年より早まったこと（2/9→1/29）により、出荷が12月に前倒しされたことによると考えられます。

なお、主な国別には、米国（+28.8%）、中国（+25.0%）、韓国（+18.6%）、タイ（+36.4%）等が大幅に増加している一方、香港（▲40.8%）や台湾（▲12.9%）、EU※（▲16.1%）、シンガポール（▲3.6%）等は減少しており、全体では▲0.6%となっています。

http://www.maff.go.jp/sogo_shokuryo/yusyutu/yusyutu_info/kunibetsu.pdf

香港や台湾の減少は、前述のとおり、旧正月が昨年より早まったことで12月に出荷が前倒しされたことによると考えられます。

※ EUは加盟25カ国の計。

注) 文章中、「大幅」は±16%台以上、「かなり」は±6～15%台以内、「やや」は±3～5%台以内、「わずか」は±2%台以内の変動を表しています。

3. 新着情報

（1）農林水産物等輸出促進全国協議会第4回幹事会を開催しました。

昨年6月の第2回幹事会で策定された「農林水産物等輸出促進倍増行動計画」の取組結果と、これを踏まえた「18年度の取組方針」を検討するため、3月22日に第4回幹事会が開催されました。

出席した各幹事からは、17年度の取組状況について、「取組を通じて今後の本格的展開に手応えをつかんだ」などの報告があった一方で、輸出先における日本の産地間競争が激化していることへの懸念などが示されました。また、現時点で予定される18年度の取組について紹介がありました。

今回の議論を踏まえ、今後、協議会では、5月に開催が予定される平成18年度総会に向けて、18年度に各構成員が取り組む「平成18年度農林水産物等輸出倍増行動計画」の策定作業を進めることとされました。



（2）VJC魅力ある日本のおみやげコンテスト2006が開催されました

魅力ある日本のおみやげを育成・発掘し、地域ブランドの振興を図るとともに、おみやげを通して日本の魅力を海外に伝え、日本への来訪を促進することを目的に、国土交通省及びビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）実施本部主催、農林水産省等の後援により、3月28日に第1回の「VJC魅力ある日本のおみやげコンテスト2006」が開催されました。

6」が開催されました。

食品部門、民芸品部門、生活用品その他実用品部門の3部門別に1次審査を通過した各25商品を対象に最終審査が行われ、このうち食品部門は、

- ・金賞：日本酒「ミニ菰樽」 株式会社岸本吉二商店（兵庫県）
 - ・銀賞：煎茶「おひなさま～日本茶ギフト～」 有限会社お茶の星陽園（福岡県）
 - ・銅賞：日本酒「媛の愛」 愛媛県酒造協同組合
- が選ばれました。

また、この他に、VJC重点市場出身の各選考委員より、母国の方々の志向や感覚に最も適した魅力あるお土産を全部門の中から1商品を地域賞として選定してもらいました。食品部門からは以下の商品が地域賞を受賞しました。

- ・フランス賞：日本酒「ミニ菰樽」
 - ・香港賞：煎茶「おひなさま～日本茶ギフト～」
 - ・台湾賞：鯛入り笹かまぼこ（真空パック） 株式会社松澤蒲鉾店（宮城県）
 - ・シンガポール賞：日本酒「ミニ菰樽」
 - ・タイ賞：ソフトりんご ふじ 株式会社はとや製菓（青森県）
- 審査結果の詳細はこちらを参照ください。

http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha06/01/010328_.html



（3）「農林水産物等輸出促進セミナー」の開催概要をホームページに掲載しました

農林水産物の生産者等の輸出志向の醸成を目的に「農林水産物等輸出促進セミナー」を本年度は全国9カ所で開催しました。

このうち、新潟、宮崎、沖縄各会場の概要を新たにホームページに掲載しましたのでご一読ください。他の会場分につきましても掲載しております。

http://www.maff.go.jp/sogo_shokuryo/yusyutu/seminar.html

（更新が遅れる場合がありますのでご注意ください。）



（4）農林水産物等貿易円滑化活動検討委員会の開催概要をホームページに掲載しました

輸出促進に向けた取組の一つとして、農林水産省では、有識者による農林水産物等貿易円滑化活動検討委員会を設置しております。

2月13日に、本年度第2回の委員会を開催し、取組の進捗状況等につき報告し、様々な意見をいただいたところです。この委員会議事録を掲載いたしましたので、ぜひご一読ください。

http://www.maff.go.jp/sogo_shokuryo/yusyutu/colmn03.html

（更新が遅れる場合がありますのでご注意ください。）

4. 韓国・ソウルの日本食事情～和泉 輸出促進室長～

この2月にソウル市内の日本食販売状況を視察する機会を得たので、概要や感想をご紹介します。

【日本食を扱っている小売店の例】

現代百貨店（高所得層の多い江南区の高級デパート）

日本のデパ地下に相当し、個別店の奥に高級スーパーがある造りとなっています。ちょうど、北海道・東北物産展と銘打った小さなイベントを行っており（百貨店による企画のよう）、コロッケ、味噌、菓子などが並んでいました。

スーパー内は、非常に高級な雰囲気、多種の青果物が並んでいますが、日本産のものはありませんでした。また、加工食品コーナーには「日本食コーナー」が設けられており、調味料、カレールー、とんかつ・お好み焼きソース、ラーメンなど多種の日本産の加工食品が置かれていました。

モノリンク（インチョンドン：日本食品専門店）

ソウル内の唯一の日本食品専門店。経営者は韓国人。インチョンドン店は1号店で、他に2店あり、現在4号店を出店準備中とのこと。12坪の小さい店で、非常に多種の加工食品（菓子、調味料など）及び冷凍食品（納豆、うどん、魚）を販売しています。青果物はありませんでした。この地域は日本人居住者が多いところですが、店の顧客の8割は韓国人とのこと。また、納豆が人気商品だそうです。なお、2、3号店は1号店に比べ売り場も大きく、人気も高いとのこと。

【輸出に向けた課題など】

ソウルでも日本食への関心は非常に高く、日式とよばれる日本式レストランも多く存在します。ただし日本人のシェフがいる本格的日本料理店は少なく、今後、日本食・食文化についてのPRが必要であると感じました。

日本からの輸出を進めるには課題もあります。その一つは高い関税率であり、末端価格が高くなる要因の一つとなっています。また、日系小売店が進出していないので、輸出に当たっては、日本の食品を扱っている韓国系小売業のバイヤーに食い込む努力が必要です。その際には、量の大きいものを好むといった韓国の消費者の志向にあった商品の提案も必要となり、さらに、日本の食品と似た現地製品が多い中、「日本産の食材」をどうアピールするかも課題となると考えられます。

5. 3月の輸出関連記事

3月の農林水産物輸出関連記事をタイトルのみ紹介します。（一部2月の記事を含みます。記事の詳細をご覧になりたい方は輸出促進室までご一報ください。）

- ・米で日本酒ブーム
（日本経済新聞 H18. 2. 27）
- ・農林水産分野の知的財産施策を強化 輸出・ブランド化を支援
（農業共済新聞 H18. 2. 28）
- ・エッセー すし屋とマンガ パリで流行の日本文化
（毎日新聞 H18. 3. 1）
- ・日本の農産物をそろえたアンテナショップ
（日刊台湾通信 H18. 3. 1）
- ・国産果実に高評価 中東向け輸出拡大有望 ジェトロ
（日本農業新聞 H18. 3. 1）

- ・上海・ハワイに進出 フジオフード 日本人向け定食など
(日経MJ H18. 3. 1)
- ・95年度農業白書 攻めの姿勢強調
(読売新聞 H18. 3. 3)
- ・日本製品種を海外で無断生産 中韓に対策訴え 農水省
(朝日新聞 H18. 3. 3)
- ・香り豊か とともに酔う 焼酎 輸出量、5年で1.5倍
(朝日新聞 H18. 3. 4)
- ・和菓子文化 ご賞味あれ
(日本経済新聞 H18. 3. 4)
- ・豪州へ米輸出検討 全中が調査
(日本農業新聞 H18. 3. 4)
- ・イチゴ 育成者権保護対象に 韓国が年内にも実施
(日本農業新聞 H18. 3. 7)
- ・米国で玄米購入意欲高い ジェトロが市場調査
(日本農業新聞 H18. 3. 7)
- ・輸出農産物ブランド保護 東京でセミナー
(日本農業新聞 H18. 3. 7)
- ・内外へ日本料理の神髄を 熊倉功夫・国立民族学博物館名誉教授
(毎日新聞 H18. 3. 7)
- ・育成者権保護に本腰 農水省が知的財産戦略本部
(日本農業新聞 H18. 3. 8)
- ・泡盛正念場 販路開拓、輸出も本腰
(朝日新聞 H18. 3. 11)
- ・現場の不安 率先し代弁
(日本農業新聞 H18. 3. 11)
- ・輸出減税を提唱 「推進する会」
(日本農業新聞 H18. 3. 11)
- ・イチゴの育成者権保護 韓国と協議開始へ
(日本農業新聞 H18. 3. 11)
- ・欧州向けに大鉢 古木の改植促す 鉢物フェニックスロベレニー 東京・八丈島
(日本農業新聞 H18. 3. 13)
- ・転換期を迎えた農産物輸出立国時代の農政 輸送ルート確立を
(日本農業新聞 H18. 3. 13)
- ・検疫よりも規格で守れ
(日本農業新聞 H18. 3. 14)
- ・国産丸太の輸出急増
(日本経済新聞 H18. 3. 14)
- ・国産品の良さPR フードデックス2006
(日本農業新聞 H18. 3. 15)
- ・人口が変える世界 中国、膨らむ”胃袋”
(日本経済新聞 H18. 3. 16)
- ・13億人の胃袋 大豆畑、南米のみ込む
(朝日新聞 H18. 3. 16)
- ・日本の農産物輸出に助言 現地業者と提携を ジェトロシンポ
(日本農業新聞 H18. 3. 16)
- ・新たな農政で提案 経財会議に中川農相
(日本農業新聞 H18. 3. 17)
(日本経済新聞 H18. 3. 17)
- ・商標登録4月緩和 「地域ブランド」続々
(読売新聞 H18. 3. 18)
- ・日本産リンゴ 上海で市民権
(日本農業新聞 H18. 3. 19)

- ・パリの国際農業見本市 初登場日本茶が好調
(日本農業新聞 H18. 3. 19)
- ・輸出拡大 高まる S A K E 人気 米 仏料理店で提供も
(毎日新聞 H18. 3. 19)
- ・コスタリカ 日本食ブームに
(毎日新聞 H18. 3. 20)
- ・農産物貿易の新潮流 フードックス2006から 日本を売り込め
輸出コーナー初設置
(日本農業新聞 H18. 3. 21)
- ・知的財産の保護が重要
(日本農業新聞 H18. 3. 21)
- ・中国富裕層 健康に関心 無農薬栽培なら高くても
(日本農業新聞 H18. 3. 22)
- ・日本酒の魅力 北京で P R 業界団体が試飲会
(日本農業新聞 H18. 3. 23)
- ・日本食ブームに期待
(日本経済新聞 H18. 3. 24)
- ・先進事例など学ぶ 山梨県の協議会 担い手対策セミナー
(日本農業新聞 H18. 3. 25)
- ・群馬県産イチゴをテスト輸出 タイに「やよいひめ」
(日本農業新聞 H18. 3. 26)
- ・米国を揺るがした首長国 ドバイは中東を変えるか
(日本経済新聞 H18. 3. 27)
- ・「世界基準」で売れ 地域ブランドに新潮流
(日経MJ H18. 3. 29)
- ・新品種、海外で無断栽培
(日本経済新聞 H18. 3. 28)
- ・和牛 知的財産に
(読売新聞 H18. 3. 29)
- ・広州の日本レストランに聞く 旬の食材を日本から直接輸入
(読売新聞 H18. 3. 29)
- ・マグロのイロハ 世界需要が変化 中国で引き合い強まる
(日本経済新聞 H18. 3. 30)
- ・空の玄関で日本産 P R 外国への土産に 全農 成田に直営店
(日本農業新聞 H18. 3. 31)

ご愛読に感謝申し上げます。以上のほか、農林水産物等の輸出に
関して知りたい、調べたい方は、次のホームページをご覧ください。
http://www.maff.go.jp/sogo_shokuryo/yusyutu.html

発 行

[農林水産物等輸出促進メールマガジン]

発行：農林水産省大臣官房国際部貿易関税課輸出促進室
(〒100-8950 東京都千代田区霞が関 1-2-1)

このメールマガジンに関するご意見・ご要望、または、転載を希望する場合は、
<mailto:yusyututaisaku@nm.maff.go.jp>
までお願いします。

.....

当メールマガジンは輸出促進対策ホームページに掲載しております。バックナンバーもこちらからご覧になれます。
http://www.maff.go.jp/sogo_shokuryo/mailmagazine.html

お知り合いの方に「農林水産物等輸出促進メールマガジン」のご推薦をお願いします。当メールマガジンの配信登録はこちらからどうぞ
<http://www.maff.go.jp/mail/index.html>

なお、配信先の変更や配信停止はこちらから手順をお願いします。
<http://www.maff.go.jp/mail/kaijo.htm>